

水 稲

若狭米の品質向上を目指し 五月半ばの米づくり

育苗

育苗時期のハウス内は高温になりやすいため、積極的に換気してください。
かん水はできるだけ午前中に行い、天候によって有無や量を加減してください。

施肥

基肥一発
施肥体系

品種名	肥料名	肥料成分N-P-K	湿田	乾田	砂質浅耕田
ハナエチゼン	早生用一発522	25 - 12 - 12	32~35	35~45	40
コシヒカリ	エココシ	21 - 4 - 4	25~30	30~35	35
あきさかり	中晩生一発522	25 - 12 - 12	32~35	35~45	40~45

※側条施肥田植機で施肥する場合、肥料により比重が異なりますので、設定開度を必ず調整して下さい。
(機種により異なるので、マシンセンター・メーカーに確認下さい)

《本田除草体系》 移植用(代かき3日後田植の場合)

田植後 日数	代かき -3	田植 0日	4日	8日	12日	16日	20日	24日	30日	農薬 成分 回数	
ノビエの 葉令	ノビエの生育段階 休眠中 鞘葉期 1葉期 1.5葉期 2葉期 2.5葉期 3葉期										
一般圃場 水持ちが良い 雑草の少ない 圃場	初 中 期 一 発 処 理	粒剤	サラブレードKAI イネキング パッチリ シュナイデン 月光1キロ粒剤・ジェイフレンド1キロ粒剤						セカンドショットSジャンボ (収穫45日前まで)		3成分
		液剤	シュナイデンフロアブル						フォローアップ1キロ粒剤 (収穫30日前まで)		3成分
		投入剤	イネキングフロアブル・パッチリフロアブル						ワイドパワー粒剤 (収穫60日前まで)		3成分
		投入剤	パッチリジャンボ シュナイデンジャンボ ガンガンジャンボ						クリンチャー1キロ粒剤 (収穫30日前まで)		2成分
水持ちが悪い など 雑草の発生が 目立つ圃場	初 中 期 剤	初期剤	ベクサーフロアブル → マメットSM1* キルクサ1キロ粒剤 → サンパンチ1キロ粒剤 アクシズMX1キロ粒剤						バサグラン粒剤 (収穫60日前まで)		4成分 (1+3) 5成分 (1+4)
		中期剤	農将軍 フロアブル → マメットSM1* アクシズMX1キロ粒剤 → サンパンチ1キロ粒剤						クリンチャーバスマE液剤 (収穫50日前まで)		4成分 (1+3) 6成分 (3+3) 7成分 (3+4)
		投入剤	農将軍 フロアブル → マメットSM1* アクシズMX1キロ粒剤						ノミニー液剤 (収穫60日前まで)		6成分 (3+3)
特に雑草が 多い圃場	一発剤 + 中後期剤	初中期一発剤						中期・後期剤 (使用時期、成分が重ならない等により選択)		3~7 成分	

病害虫防除

いもち病、紋枯れ病等の発生予防とイネミズウムシなどの害虫発生対策として**箱施薬を必ず施用**
(エバーゴールド箱粒剤、ジャッジ箱粒剤、デジタルメガフレア箱粒剤、トリプルキック箱粒剤)してください。
※秋のカントリー等の施設は「五月半ばの田植え」を基本とした荷受となりますので、利用者の方は田植え時期にご注意ください。

食味向上栽培管理のポイント (目標値 コシヒカリ5.5%~6.5%)

(1) 玄米タンパク値が高い(6.8%以上) 場合

◆ 施肥量の低減(特に地力の高い圃場)

従来の施肥量から窒素成分量で10%当り1~2割減らす(特に穂肥分)
ただし、この場合に以下の点を必ず確認し、タンパク低下の改善が見られない場合は再度施肥量を検討する。また収量・品質が低下した場合は下記(土づくり)を検討する。

- 生育：出穂期~出穂後20日間の葉色が極端に淡くないか
- 収量：収量が低下していないか
- 品質：未熟粒、胴割粒の発生による検査等級低下がないか
- 食味：玄米タンパクが低下しているか

- ◆ 土づくり・・・ケイ酸質資材の施用、堆肥等有機物の施用
- ◆ 倒伏低減対策・・・倒伏軽減剤の使用
- ◆ 生育過剰の抑制・・・早めの中干

(2) 玄米タンパク値は低い(5.5%未満)が、未熟粒(基白粒、背白粒など)胴割粒が多く検査等級落ちしている場合

- ◆ 施肥量の増加・・・従来の施肥量から窒素成分量で10%当り1~2割増やす(特に穂肥分)
- ◆ 出穂期・・・~出穂20日間のこまめな水管理
- ◆ 土づくり・・・ケイ酸質資材の施用、堆肥等有機物の施用、深耕

テーマ「まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全」

春の農作業安全 確認運動の 実施について

農業就業人口が減少する中、毎年約300人以上発生し続けている農作業死亡事故を減少させるため、春作業が行われる3~5月を重点期間として、関係団体・企業等と一体となって「春の農作業安全確認運動」を展開します。
平成31年の運動については、GAP(農業生産工程管理)の周知を通じた現場の改善活動、農業者への安全確保の声かけ・注意喚起等の農作業事故防止対策の取り組みを推進します。

